

に三箇月の後であるからそれまで待たるゝ方が得策である。強て私の許に出さうとさるゝならば拒絶する外はない」とて從來に比し頗る穩かに拒絶せり。これに對して代表委員灘、中村、村瀬の三氏より「待ち得るほどならば、こんな騒動も起らず、又此の嘆願書の提出もせぬ譯ですから」とて詰め寄せ山本重役その矢面に立ち殆んど談笑の裡に交渉を進めたるが「電報で社長の許へ何うて呉れ」一人を派して呉れ」「自分の方で電報を打つから裏書をして呉れ」との委員側の三要求も容れられず、野倉氏の復職も採用されず、代表委員は窓外の聲援を耳にし「この騒動を仕うして納める事が出来ませう」とて重役を詰り「私達がこのまゝ歸れば或は充奮してゐる同僚が何麼なことをするか判りませぬ」とて動かす、山本重役は「始めから鎮まらぬと決めてかゝらずに鎮まるものと期して呉れ」と押問答あり。結局灘委員より「然らば改めてこの騒ぎを鎮めることに就いて明後十一日に會見して協議がしたいからお會ひ下さるか」と要求し水留重役は「何時でもお會ひする」と約し午後四時二十分會見を終る。兵庫分工場の罷業は愈々濃厚の度合を加へ兵庫署は陰平警部以下五十餘名の警官を派し同所事務室に陣取らしめ夜を徹して警戒嚴重を極め、職工側は九日も千八百餘常の如く出勤約一時間工場の各所に小集團を造り密議を凝らしたる後八時半鐵工科の全員を先登とし壓練科、模型科、木工科、自動車科の順序を以て何れも早退の手續を正式に済ませ相繼いで場外に出で示威運動に移れり。鑄造工のみは其の大部分罷業の状態を持續し僅に一部百九十餘は朝來出勤はしたるも怠業状態を保ちて作業せず

時餘にして聯袂工場門を出てたり。又斯かる一方神戸市脇之濱町に在る川崎造船所葺合工場職工八百五十名中電工約三十名運搬工約百七十名は此の日朝來怠業を開始し漸次一般に及び午後は瓦斯工約三十名の外全部怠業せり。

### 商業會議所の憂慮

神戸商業會議所に於ては今回の労働爭議にして曠日瀰久遷延せんか市の商工業發展上に支障を及ぼすこと一方ならずとなし、之が調停の衝に當るべく九日午後一時より同會議所内に、瀧川會頭、西川副會頭、町野社會部長其他の役員七名參集凝議の結果、本問題の發端、經過等に就き、種々研究を遂げたる後結局資本家側と労働者側との代表者に會見し、双方の意見を徴することとして散會したるが當日偶然久留弘三氏は同會議所を訪れ該席に労働者側の意見を詳述したり。

### 十一、三萬労働者の示威行列

労働爭議團が全威力を示さんとする大示威運動は十日舉行されたり。其參加団体は、川崎造船所職工團、發動機工組合、三菱造船所職工團、印刷工組合、電正會、京阪應援友誼團體、友愛會神戸聯合會、神戸鐵工組合、川崎兵庫工場職工團等會下山に參集したるもの約三萬九時同山上に整列し、電正